



「馬と、風景と、楽しむ人々」

日本中央競馬会
東京競馬場
場長

増田 知之



皆様、あけましておめでとうございます。

昨年、東京競馬場は春に「第80回記念日本ダービー」を、秋には「東京競馬場開設80周年」を迎えました。

JRAは馬と競馬そのものの魅力を最大限に訴えて、東京競馬場ではこの記念すべき年に、より多くのお客さまにおいでいただき楽しんでいただけるよう、職員一丸となって従来にはない様々な工夫に心がけました。

おかげさまで、春秋ともにたくさんのお客様を競馬場にお迎えすることができました。

競馬の魅力は様々にあります。

そして、競馬の舞台としての競馬場が、競馬場として独特で素晴らしい雰囲気醸し出せる要素は三つである、と思っております。

一つは競走馬が競馬場にいること。

二つ目は競馬場の持っている風景。コース、スタンド、入場門、木立などの造形と色彩が作り出す広々とした光景があること。

その二つがあって、さらにそこに三つ目として大切なのは、競馬場に人々（たとえ決して多くなくても）が集って楽しんでいること。

あたりまえのことを言っているようですが、この三つの「馬と、風景と、楽しむ人々」が揃わなければ、競馬の魅力は醸し出されないと十数年前、英国にいた時つくづく思いました。

競馬の魅力をより多くの人々に知っていただくための競馬場の役割の一つに、競馬場で人々が快適に心地よく寛げるよう、各開催の季節に適した雰囲気も用意すること。つまり競馬場に来て楽しい、心がはずむという気分をもってもらうこと。

昨年の第80回日本ダービーは、競馬場が人々で満ち溢れるほどの139,806名の人にご来場いただき、また東京競馬場だけでなく全国的にも、日本ダービー開催ムードが例年以上に行き渡ったのではないかと思います。

JRAは第80回記念ダービーだから宣伝などの費用をかけて重点的に取り組んだ、と思われる向きもあるかと思いますが、それは少し違います。

中央競馬の発売金は、ピークの平成9年から14年間減少し続けました。その中身を見てみると落ち込みの最も大きいのがGIレースです。減少率で言えば特別競走よりも重賞競走の下落率は多く、また重賞の中でもGⅡGⅢよりGⅠの下げ幅が深刻。これが意味することは、GⅠだけ馬券を買って競馬をみていたライトファンが、年々大きく減っているということ。競馬がブームと呼ばれた時代に、ビッグレースだけ競馬を楽しんでいた人々が次第に減り続けているということ。このままではコアな（本当に競馬に熱心な）お客様しかいなくなる、という可能性があるということです。

昨年2月まで、私は馬券の発売、お客様の安全確保、ファンサービスなどが仕事のお客様事業部にいましたので、早い時期から広報部と連携して、GI競走へのお客様への参加を取り戻すため、GIの中でも最も発売金と参加人員が多い日本ダービーと有馬記念に集中重点特化策を模索しておりました。そして土川理事長の指揮のもとに、JRAはこれをすべての組織と競馬サークル全体が一丸となって実施する施策として取り組むことになったのです。

幸いにもダービーは80回という一つの節目ということもあったので、特にこの重点施策は効果的に実施できました。そして、好天に恵まれた当日の日本ダービーそのものは、武豊騎手がタヅナを操るキズナが優勝するという、また一つ競馬の忘れがたい歴史が刻まれました。

競馬の魅力は馬です。競走馬です。サラブレッドが競走を通じて私たちにみせてくれる物語です。ダービーや有馬記念には歴史、伝統や多くの物語があります。競馬は歴史の積み重ねで成り立っています。

だからこそGI競走には多くの人々の興味が向き、馬券の発売金も他とは格段に大きいのです。

競馬の面白さ、人々を競馬に惹きつけるもの、それは何か？

そのことを改めて認識して競馬開催に向き合う必要性を実感しています。

